

中古救急車援助事業 報告書

平成 18 年度

フィジー諸島共和国
セント・ジョン・アソシエーション (NGO)



セント・ジョン・アソシエーションのスタッフ集合写真

平成 20 年 8 月
社団法人 日本外交協会

1. 本事業の趣旨

日本において、救急自動車・消防自動車・塵芥収集車といった特殊自動車は、自治体の管理下で所有・利用され、一定期間の後に廃棄される。ただし、処分直前までは予備車として、各消防本部や各自治体にて整備された状態で保管されているのが通常である。日本国内で使用し続けることが困難になった中古車両でも、使用中の保管・整備が徹底されているため状態は良く、このような車両が不足している開発途上国からは、ぜひ使用したいという要請が多い。

社団法人日本外交協会では、各自治体やその消防本部に対して、車両廃棄予定を調査の上、要請条件に合うものを譲渡していただけるよう、協力を依頼している。譲渡を受けた車両は、引き取り、整備・修理、輸送の手配等を日本外交協会の責任において行い、要請のあった途上国に送り届けることになる。その際には、外務省と協議しながら、政府開発援助（ODA）の中の「リサイクル草の根・人間の安全保障無償資金協力」を利用し、その後5年間程度は使用してもらえるような状態で現地へ搬送している。

2. 要請団体

フィジー諸島共和国 セント・ジョン・アソシエーション（NGO）

3. 供出団体と譲与車両（以下、順不同）

高規格救急車 1台

- ・ 狭山市消防本部

メーカー：ニッサン、年式：1995年製、車体番号：APR71L7740086

救急車 1台

- ・ 利根沼田広域消防本部

メーカー：ニッサン、年式：1996年製、車体番号：VRMGE24-132898

4. 実施の経緯

<要請の背景>

フィジー諸島共和国は、南太平洋の美しい海に囲まれた330個もの島々からなる国である。日本から南へ約7,000Km離れた南太平洋のほぼ中央部に位置し、各月の平均気温は23～28度と年間を通して気候に恵まれている。人口約83万人のこの国には、年間45万人の観光客が訪れ、観光が最大の産業となっていることもあり、保健・安全面でのサービス向上は不可欠である。

セント・ジョン・アソシエーションは、イギリスに本部のある国際NGOで、40以上の国々で民間救急活動を行っている。フィジーでは1939年に活動が開始された。同NGOのサービスには定評があるが、老朽化した車両の入れ替えが必要とな

ったため、日本大使館へ支援を要請した。

首都スバのあるビチレブ島の中でも、特に観光客の多い海岸沿いから高地にかけての地域で利用され、この地域でのひ益人口は25万人にのぼると予想される。

<輸送と整備について>

車両は日本の国内で整備した上で輸出している。内部の装備点検、必要な部品の交換、外装塗り直しに加え、車両の前面、及び側面には、日本の援助として送ったことを示すODAマークや、交差して並ぶフィジー諸島共和国と日本の国旗を貼付した。

<セレモニーについて>

2007年1月19日、セント・ジョン・アソシエーションの本館前で2台の救急車の引渡式が行われた。セント・ジョン・アソシエーション事務局長ババロア氏、日本大使館からは滑川雅士特命全権大使が出席した。

6. 要請から実施までの流れ

平成 18 年	4月～	在フィジー諸島共和国日本大使館より、中古救急車供与の申請がある旨の連絡が当協会に入る。
		車両の選定・調整、輸送費見積り調査、資金の申請手続き等
	11月17日	セント・ジョン・アソシエーションと、日本大使館との間で「草の根・人間の安全保障無償資金協力」供与契約署名。
	11月17日	セント・ジョン・アソシエーションと、日本外交協会の間で、車両譲渡に関する合意文書交換。
	11月～	車両整備開始
	12月11日	横浜港 出港
	12月30日	スバ港 到着
平成 19 年	1月19日	車両引渡式

— 別添資料 —

- ・ 【地図】フィジー諸島共和国
- ・ フィジー諸島共和国 基本情報
- ・ 受領書(写し) 英語/和訳
- ・ 写真:署名式・引渡し式の様子

【地図】フィジー諸島共和国



フィジー諸島共和国 基本情報

(出典：外務省 HP)

面積	1万8,270平方キロメートル(四国とほぼ同じ大きさ。世銀)
人口	827,900人(2007年、政府人口調査)
首都	スバ(167,975人、2004年12月)
人種	フィジー系(57%)、インド系(38%)、その他(5%) (2007年政府人口調査)
言語	英語(公用語)の他フィジー語、ヒンディー語を使用。
宗教	フィジー系はほぼ100%キリスト教、インド系はヒンズー教、回教。 全人口に占める割合はキリスト教52.9%、ヒンズー38.2%、回教7.8%
主要産業	観光、砂糖、衣料が三大産業
GDP	28億米ドル(2006年、世銀)
一人当たりGNI	3,300米ドル(2006年、世銀)
我が国の援助実績 (2006年度までの累計)	(1)有償資金協力 22.87億円 (2)無償資金協力 146.44億円 (3)技術協力 211.19億円
主要援助国(百万米ドル、 2005年、支出純額ベース)	(1)豪州(20.46)、(2)日本(12.59)、(3)NZ(3.47)



ST JOHN ASSOCIATION OF FIJI

25th January 2007

Mr Yasuhino Ikeura
Managing Director
The Society of Promotion of
Japanese Diplomacy
4F Ikura Central Building
3-1-2 Azabudai, Minato Ku,
Tokyo 106-0041 Japan.

Dear Mr. Yasuhino San,

Re: RECEIPT OF TWO AMBULANCES.

I write to acknowledge your generous donation that was officially conveyed to us by the Ambassador of Japan in Fiji H.E Masashi Namekawa on Friday 19th January 2007.

The arrival of the two ambulances was timely in view of the Associations proposed plan to extend its service to the five remaining centers on the main island of Fiji (1 City and 4 Town), yet to benefit from the Emergency Service provided by the Ambulance of St John Association - Fiji.

To date, donations received from your government and the people of Japan remains the highest to St John Association Fiji, and we sincerely thank your Country and its people for believing in St John as a worthy partner and recipient of your kind hearted donations.

In support of our appreciation and in recognition of your continuous patronage towards St John, Council Members and the Association staff, wish to reciprocate in a small way to the Embassy staff in Fiji, that free transportation would be provided for any casualty/patient uplift from and to Nausori/Nadi airports transfers including hospital transfers from residence respectively.

Sir I enclose photographs taken during the Key handing over Ceremony for your perusal and reference.

I, on behalf of the St John Council, London Head Quarters and the St John Association Fiji staff wish to extend our sincere thanks and Vinaka Vakalevu to your Government and the people of Japan.

Yours in the Service of Humanity,

Vavaloa Tukana SBSIJ - JP
General Secretary

cc: HE Ambassador of Japan
2nd Floor
Dominion House
Thomson Street

PO Box 70
Suva
Fiji Islands

Phone: +679-330-2584
Fax: +679-330-4425

2007年1月25日
日本外交協会
専務理事 池浦 泰宏 殿

救急車2台に関する受領書

2007年1月19日(金)、在フィジー日本国大使館の滑川雅士特命全権大使を通じて、我々に救急車2台が寄贈されたことをここに記します。

2台の救急車は、これまでサービスを行うことができずにいた5地域(1市、4町)へ事業を拡大しようというこの時期に、たいへんよいタイミングで届きました。

今日までセント・ジョン・アソシエーションは、日本の皆様から最大の寄付をいただいております。我々を受取人として認め、プロジェクトを実施していただけたことに対し、心から感謝申し上げます。

セント・ジョン・アソシエーションがどれほど感謝しているかということで申し上げますれば、このサポートのおかげで人が人や病人の移動に際して、ナウソリやナンディの空港や家々から病院への移送を無料で行うことができます。

引渡式での集合写真や鍵を受け取った際の写真をお送りいたしますので、ご覧下さい。

ロンドンのセント・ジョン・アソシエーション本部および理事会、そしてフィジー本部のスタッフを代表し、日本の皆様に心からの感謝をこめて、「Vinaka Vakaleue (注: フィジー語でありがとうの意味)」と申し上げます。

ひとびとのために、

セント・ジョン・アソシエーション・フィジー
事務局長
ババロア・トゥナカ
(CC: 日本大使館殿)

引渡式写真

本プロジェクトでは、日本からの中古救急車2台を、フィジー諸島共和国のNGOである St. John Association（セント・ジョン・アソシエイション）へお贈りしました。各車両は日本の自治体から無償で提供いただき、その整備・輸送にかかる費用は、日本政府の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」（政府開発援助の一つ）の支援を受け、日本の人々の善意に支えられた国際協力となっています。

在フィジー日本国大使館を通じて、平成18年度に資金が供与され、平成18年12月30日に現地へ到着いたしました。その後、平成19年1月19日に現地にて引渡式が行われました。

在フィジー日本大使館、草の根調整員からの追伸

2007年4月1日

「クリスマス島出張からフィジーに戻る飛行機に病人が乗っており、到着して空港を出るとセント・ジョンの救急車が止まっていました。バックには日本外交協会と書いてあり、様子を見てみると、セント・ジョンの職員のほうから声をかけて来てくれました。引渡し式の際に会っていたようで、覚えてくれていたようです。救急車が本来の目的で活用されているのを見て嬉しかったです。」

<p>1 署名式にて</p> <p>集合写真 右端：滑川雅士特命全権大使 右から3番目：セント・ジョン・アソシエイション事務局長ババロア氏</p>	
<p>2 署名式にて握手を交わす。</p> <p>右：滑川大使 左：ババロア事務局長</p>	

<p>3</p>	<p>引渡式の様子 鍵の贈呈</p>	
<p>4</p>	<p>引渡式の様子 集合写真 左端：ババロア事務局長 左から3番目：滑川大使</p>	
<p>5</p>	<p>救急車の鍵の引渡し 左：滑川大使 右：セント・ジョン・アソシエイ ション理事長</p>	
<p>6</p>	<p>車内見学 救急車の内部を見学する関係者達</p>	